

○間(野邊地久吉君)長クシテ「コンチニユアス、ビームトスレハ目方が少シ減ルベキ理屈デアリマスガ構造が六ケシイテシヨウ

○答(畑精吉郎君)五十人乗ノ、ホイールベイス「カ十二尺カ十二尺六「インチ」テゴザイマス、ソレガボギノ方ハ三十四尺八「インチ」テ「チヨツト三倍程ニナリマス

○(近藤虎五郎君)アナタニ伺フノハ宜シクナイカモ知レマセヌガス「イーピングカー」ハマダ得ラレナイモノデゴザイマセウカ

○答(畑精吉郎君)私ハ直接其道ニ當ツテ居ル者デハゴザイマセヌガ近日出来ルヤウナ運ビニナルドラツト思ヒマス先達私ハ東海道線テ上等ノ御客サンハドノ位御乗リニナルカ知ラント調べテ見タ所ガ一列車ニ二人デゴザイマス一昨年度ハ一列車ニ二人一分昨年度ガ二人二分デゴザイマス、ス「イーピングカー」ニスルトソレニ一人ホカ御客ガナイヤウニナル、併シ或列車ニハ随分御客ガアルカラ列車ヲ能ク選ンデス「イーピングカー」チ付ケレバ宜カラウト思ヒマス

○會長(玉木辨太郎君)御質問モナイヤウデゴザイマス是ア通常會ハ終リマシタ畑君ハ西洋カラ御歸リニナツテ御忙シイニ拘ハラス此節鐵道ノ進歩ト共ニ研究シナケレハナラヌ車輛列車ノコトニ付テ委シイ演説ヲシテ下サレマシテ諸君ト共ニ非常ニ利益シタコトデアリマス諸君ニ代リマシテ私ハ畑君ニ御禮ヲ申シマス

論說及報告

京都疏水々々力事業ノ現況及將來 (承前)

山田忠三君

第壹號 京都疏水々々方事業ノ現況及將來

番號	第一號	第二號	第三號
發電機製造所 及番號据付年 月日	米國セチラル エレクトリック ク會社製 明治二十四年 六月	米國セチラル エレクトリック ク會社製 明治二十四年 六月	米國スタンレー エレクトリック ク會社製 第一〇四號 明治二十七年 八月
發電機方式	エナソン式直通八十 キロワット(二百馬力) 電壓 五百ヴオルト 電流 百六十アンペ ーヤ 一分間回轉數七百回	エナソン式直通八十 キロワット(二百馬力) 電壓 五百ヴオルト 電流 百六十アンペ ーヤ 一分間回轉數七百回	スタンレー二相式六十 キロワット(八十 馬力四分) 電壓 二千ヴオルト 電流 十五アンペーヤ 一分間回轉數 一千 同交番數一万六千回
發電機付屬品	一レナスタット 二個 一雙極スウヰッチ 一個 一電流計 一個 一ウエストン電壓計一個 一雙極スウヰッチ 一個 一遮斷器 二個 一安全器 二個 一パイロットランプ一個	一レナスタット 二個 一雙極スウヰッチ 一個 一電流計 一個 一ウエストン電壓計一個 一雙極スウヰッチ 一個 一遮斷器 二個 一安全器 二個 一パイロットランプ一個	一三極スウヰッチ 三個 一電流計 二個 一遮斷器 三個 一漏電計 一個 一レオスタット 一個 一ヴオルトメーター一個 一變成器 一個 一雙頭スウヰッチ 一個
エキサイター方式			米國紐育シ、エンド、シ、 エレクトリック會社 製第四八八號 ¹⁾ ₂ 形 電壓 百四十ヴオルト 電流 八アンペーヤ 一分間回轉數二千回
エキサイター付屬品			一レオスタット 一個 一雙極スウヰッチ一個 一メーター 一個
水車及カオントーシヤフット	一百二十馬力水車 一個 徑八呎 バケツ 廿六個 滑車 一個 リングベルト 一筋 カオントーシヤ フト大小滑車 二個 二枚合帶車 一筋	一百二十馬力水車 一個 徑八呎 バケツ 廿六個 滑車 一個 リングベルト 一筋 カオントーシヤ フト大小滑車 二個 二枚合帶車 一筋	一百二十馬力水車 一個 徑六呎 バケツ 廿六個 滑車 一個 リングベルト 一筋 カオントーシヤ フト大小滑車 二個 二枚合帶車 一筋

號一十第	號十第	號九第	號八第
<p>米國セチラル エレクトリック ク會社製A形 第千八百三號 明治二十六年 六月</p>	<p>米國トムソン ハウストン會 社製 第一〇六六號 明治二十四年 十二月</p>	<p>米國セチラル エレクトリック ク會社製 明治二十九年 九月</p>	<p>獨逸シームン スハルスケ社 製造R形8950 第一四三二〇 號 明治二十九年 六月</p>
<p>交流トムソン單相式 六十キロワット 用(八十馬力四分) 電壓 無負荷二千八十 全負荷二千三百 八ボルト 電流 三十アンペ ヤー一分間回轉數 千八百回 同交番數 一万五千回</p>	<p>交流トムソン單相式 七十五キロワット (百馬力) 電壓 千ボルト 電流 七十アンペ ヤー一分間回轉數 千七十回 同 交番數 千七百回 一万五千回</p>	<p>多村直通式百キロワ ット(百二十馬力) 電壓 五百ボルト 全方負荷ノ際五 五ボルトニ達ス 電流 百八十二アン ペヤー 一分間回轉數 六百五十回</p>	<p>交番シームンス三相 式八十キロワット(百 馬力) 電壓 二千ボルト 電流 二百八アン ペヤー 一分間回轉數五百回 同 交番數 六千回</p>
<p>一 避雷器 二個 一 安全器 二個 一 消電計 一個 一 双極スイッチ 一個 一 電壓計變更器添 一個 一 電流計 一個 一 レオスタット 一個</p>	<p>一 避雷器 二個 一 安全器 二個 一 同上用變壓器 一個 一 電流計 一個 一 滿電計 一個 一 双極スイッチ 一個 一 レオスタット 一個</p>	<p>一 電壓計 一個 一 避雷器 一個 一 電流計 一個 一 レオスタット 一個 一 V形サーキット 一個 一 アプレキア 一個 一 双極スイッチ 一個 一 電壓計スウヰッチ 一個</p>	<p>一 安全器 三個 一 電流計 一個 一 電壓計 一個 一 同用變成器 一個 一 三種スウヰッチ 一個 一 避雷器 三個</p>
<p>トムソンハウストン會社 製第四〇七六號 電壓 百十ボルト 電流 二十四アンペ ヤー一分間回轉數 二千五百回</p>	<p>トムソンハウストン會社 製第三千六百號 電壓 百十ボルト 電流 二十八アンペ ヤー一分間回轉數 二千四百回</p>		<p>獨逸シームンスハルスケ 社製EA1415形(五二二六 號) 電壓 自五十ボルト 至百十ボルト 電流 自三十アンペ ヤー至六十アンペ ヤー 一分間回轉數五百回</p>
<p>一 双極スイッチ 一個 一 レオスタット 一個</p>	<p>一 レオスタット 一個 一 双極スイッチ 一個</p>		<p>一 電流計 一個 一 レオスタット 一個</p>
<p>一百二十馬力水車 一個 徑八呎 パケツ 廿六個 滑車 一個 リンケベルト 一個 カオスターシヤ 二個 フト大小滑車 一筋 二枚合帶率</p>	<p>一百二十馬力水車 一個 徑八呎 パケツ 廿六個 滑車 一個 リンケベルト 一個 カオスターシヤ 二個 フト大小滑車 一筋 二枚合帶率</p>	<p>一百二十馬力水車 一個 徑八呎 パケツ 十八個 滑車 一個 リンケベルト 一個 カオスターシヤ 二個 フト大小滑車 一筋 二枚合帶率</p>	<p>一百二十馬力水車 一個 徑八呎 パケツ 廿六個 滑車 一個 リンケベルト 一個 カオスターシヤ 二個 フト大小滑車 一筋 二枚合帶率</p>

號五第	號四第	號三第	號二第
東京芝浦製機 製造第八二 四號 明治二十八年 六月	獨逸シーメン スハルスケ社 製造E形39 50 第二二六九號 明治二十九年 一月	米國ゼテラル エレクトリツ ク會社製A形 千四百九十一 號 明治二十七年 四月	米國ゼテラル エレクトリツ ク會社製A形 第一四八九號 明治二十七年 四月
交流スタンレー二相 式六十キロワット(八 十馬力四分) 電壓二千ヴオルト 電流十五アンペーヤ 一分間回轉數千回 一分間交番數一萬六千	交流シーメンス三相 式八十キロワット(百 馬力) 電壓二千ヴオルト 電流二十八アンペ 一分間回轉數五百回 一分間交番數六千	交流トムソン單相式 六十キロワット千燈 用八十馬力四分 無負荷一〇四〇 電壓二千八百ボルト 全負荷一〇〇〇 電流六十アンペ 一分間回轉數千五百回 同交番數一萬五千回	交流トムソン單相式 六十キロワット千燈 用八十馬力四分 無負荷一〇四〇 電壓二千八百ボルト 全負荷一〇〇〇 電流六十アンペ 一分間回轉數千五百回 同交番數一萬五千回
一避雷器 一電壓計 一電流計 一安全器付双極 一スワッチ 三個 一個 二個 二個	一避雷器 一安全器 一電壓計變壓器添 一電流計 一三極スワッチ 三個 一個 三個	一避雷器 一安全器 一電壓計 一電流計 一漏電計 一雙極スワッチ 一レオスタット 二個 二個 一個 一個 一個 一個	一避雷器 一安全器 一漏電計 一雙極スワッチ 一電壓計變壓器共 一電流計 一レオスタット 二個 二個 一個 一個
同社製造發電機聯接 電壓五百ヴオルト 電流十アンペーヤ 一分間回轉數千回	獨逸シーメンスハルスケ 社製E形第一二六六三號 電壓百十ヴオルト 電流二十五アンペーヤ 一分間回轉數五百回	米國ゼテラルエレクトリ ツク會社製第四三四號 電壓百十ヴオルト 電流二十四アンペーヤ 一分間回轉數二千四百回	トムソンハワストン會社 製第四三三七號 電壓百十ヴオルト 電流二十四アンペーヤ 一分間回轉數二千四百回
一雙極スワッチ一個 一レオスタット一個	一電壓計 一電流計 一レオスタット一個 一單極スワッチ一個	一雙極スワッチ一個 一レオスタット一個	一雙極スワッチ一個 一レオスタット一個
一百二十馬力水車一個 徑八呎 滑車 バケツ 一筋	一百二十馬力水車一個 徑八呎 滑車 バケツ 一筋	一百二十馬力水車一個 徑八呎 滑車 バケツ 一筋	一百二十馬力水車一個 徑六呎 滑車 バケツ 一筋
カオンダイシヤ フト大小滑車 二枚合帶革 二個	カオンダイシヤ フト大小滑車 二枚合帶革 二個	カオンダイシヤ フト大小滑車 二枚合帶革 二個	カオンダイシヤ フト大小滑車 二枚合帶革 二個

論說及報告

六百二十七

號九十第	號八十第	號七十第	號六十第
<p>米國スタンレー エレクトリック 社製造 2号第一一三 號 明治二十八年 六月</p>	<p>編送シームン スハルス社計 製造形3950 明治三二號 第四三二號 明治二十九年 六月</p>	<p>米國セテラル エレグトリック 社製AP形 第二五九一號 明治二十九年 六月</p>	<p>獨逸シームン スハルス社 製形3950第 一三〇一〇號 明治二十九年 四月</p>
<p>交流スタンレー二相 式八十キロワット (百馬力) 電壓 二千四百ヴォ 電流 廿アンペーヤ 一分間回轉數 一千 一分間交番數 一万六千</p>	<p>交流シームンス三相 式八十キロワット (百馬力) 電壓 二千四百ヴォルト 電流 二十七アンペーヤ 一分間回轉數 五百回 一分間交番數 六千</p>	<p>交流トムソン三相式 百キロワット(百三 十馬力) 電壓 二千四百ホルト 電流 二十四アンペーヤ 一分間回轉數 九百回 一分間交番數 七千二百</p>	<p>交流シームンス三相 式八十キロワット(百 馬力) 電壓 二千四百ヴォルト 電流 二十三アンペ 一分間回轉數 五百回 一分間交番數 六千</p>
<p>一 避雷器 三個 一 安全器 三個 一 電壓計變壓器付 一個 一 電流計 一個 一 三極スウヰッチ 一個</p>	<p>一 避雷器 三個 一 安全器 二個 一 電壓計 變壓器付 一個 一 電流計 一個 一 三極スウヰッチ 一個</p>	<p>一 避雷器 三個 一 安全器 三個 一 電壓計變壓器付 一個 一 電流計 一個 一 漏電計 一個 一 レオスタット 一個 一 三極スウヰッチ 一個</p>	<p>一 避雷器 三個 一 安全器 三個 一 電壓計變壓器付 一個 一 電流計 一個 一 三極スウヰッチ 一個</p>
<p>米國シエンドシエレクト リック會社製^{1,2}第四八 九號 電壓 四百四十ヴォルト 電流 八アンペーヤ 一分間回轉數 二千回</p>	<p>獨逸シームンスハル スク社製EA形1415第一五 二七七號 電壓 五百ヴォルト 電流 自三十アンペーヤ 至六十アンペーヤ 一分間回轉數 五百回</p>	<p>米國セテラルエレグトリ ック會社製IB形第四七二 〇號 電壓 二百二十ヴォルト 電流 二十アンペーヤ 一分間回轉數 千九百回</p>	<p>獨逸シームンスハルス 社製第一八二三八號 電壓 二百二十ヴォルト 電流 五十三アンペーヤ 一分間回轉數 五百回</p>
<p>一 電壓計 一個 一 電流計 一個 一 レオスタット 一個 一 雙極スウヰッチ 一個</p>	<p>一 電流計 一個 一 レオスタット 一個</p>	<p>一 雙極スウヰッチ 一個 一 レオスタット 一個</p>	<p>一 電壓計 一個 一 電流計 一個 一 レオスタット 一個 一 單極スウヰッチ 一個</p>
<p>徑八十馬力水車 一個 徑八呎 滑車 廿六個 リソクベルト 一個 カオンターシヤ 二個 フト大小滑車 二枚合帶革 一筋</p>	<p>徑八十馬力水車 一個 徑八呎 滑車 廿六個 リソクベルト 一個 カオンターシヤ 二個 フト大小滑車 二枚合帶革 一筋</p>	<p>徑八十馬力水車 一個 徑八呎 滑車 廿六個 リソクベルト 一個 カオンターシヤ 二個 フト大小滑車 二枚合帶革 一筋</p>	<p>徑八十馬力水車 一個 徑八呎 滑車 廿六個 リソクベルト 一個 カオンターシヤ 二個 フト大小滑車 二枚合帶革 一筋</p>

第三號

創業以來明治三十一年三月迄電力使用年表

×ヲ附スルモノハ現今工事中

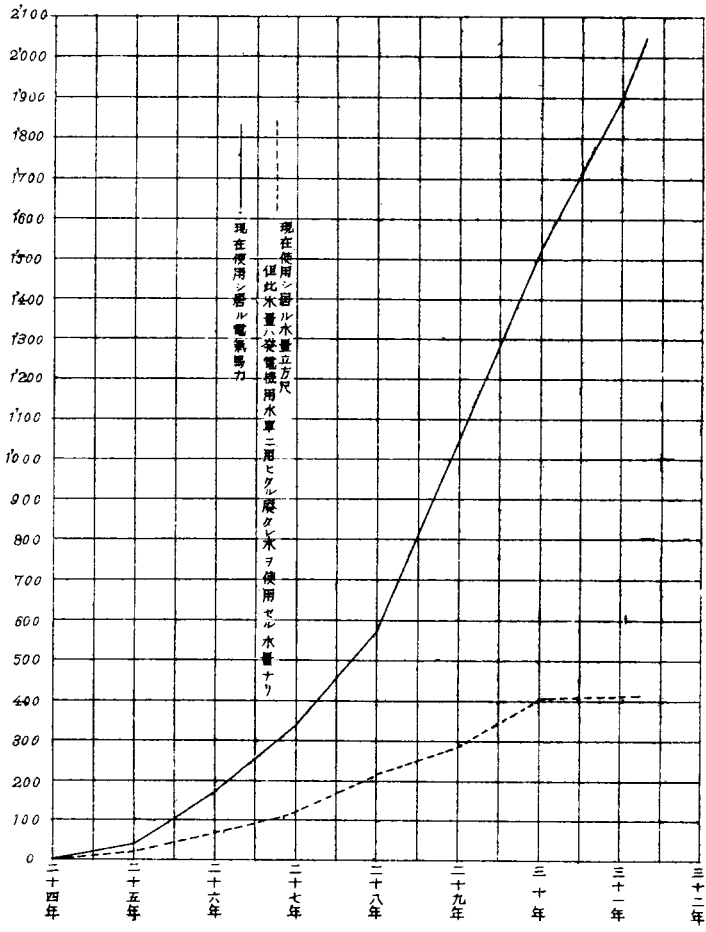
使用種類	廿四年末	廿五年末	廿六年末	廿七年末	廿八年末	廿九年末	三十年末	卅一年末	使用者
時計製造	馬力 一、〇〇	馬力 一〇、〇〇	馬力 一五、〇〇	馬力 二二、六〇	馬力 三三、五〇	馬力 七五、〇〇	馬力 一三〇、〇〇	馬力 一三三、〇〇	京都時計製造株式會社
インクラ	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	蹴上インクライン用
綿糸紡績		三五、〇〇	五〇、五〇	五二、〇〇	五二、〇〇	五二、〇〇	五二、〇〇	五二、〇〇	藤井紡績所
時計製造		一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	二二、七五	二二、七五	二二、七五	二二、七五	大澤善助
電燈		九〇、〇〇	一四、〇〇	三五、二、〇〇	四〇九、二、〇〇	四四四、二、〇〇	六八八、二、〇〇	六七、一、〇〇	京都電燈株式會社
黃銅延板			一〇、五〇	一〇、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	俵政七
燃糸			二六、六〇	五七、六〇	五九、五〇	四三、四〇	四〇、〇〇	四〇、〇〇	京都織物株式會社
ラム子製造			一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	柳本平兵衛
炭團製造			二〇、〇〇	二〇、〇〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	鈴木定七
製油			五、五〇	五、五〇	五、五〇	五、五〇	五、五〇	五、五〇	山城製油株式會社
揚水			七、六〇	七、六〇	六五、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	梅本儀一
燃糸			四、〇〇	四、〇〇	〇、〇	四、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	岩崎利平
織物					八二、五	一三〇、〇	二七五	三七	松村善三郎
燃糸					〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	岡崎敬之助
鍛冶					一〇〇、〇〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	堀井爲次郎

論說及報告

器械製造	團炭製造	燃糸	針製造	精米	器械製造	製網	箔打	同	同	揚水	印刷	綿糸紡績	揚水	印刷	電氣鐵道	電燈	弧狀燈
																八、〇〇	四〇〇
		一五、〇〇	三〇、〇〇	四、〇〇	二五、〇〇	五、五〇	四、〇六	一五、〇〇	三、四三	一〇〇、〇〇	二、五〇	三〇、〇〇	二〇〇、〇〇				
二、四三	五、〇〇	二〇、〇〇	三六、〇〇	四、〇〇	五、五〇	一一、八八	四、〇六	〇、〇〇	三、九三	二、七五	一、五〇	二〇〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	二、五〇	三、〇〇	二五、〇〇
一、二五	〇、〇〇	二五、〇〇	三六、〇〇	四、〇〇	〇、〇〇	二、七五	四、〇六	〇、〇〇	三、九七	二、七五	二、五〇	二〇〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	二、五〇	三、〇〇	二五、〇〇
奧村猛	團炭合資會社	本庄武助	日本製針株式會社	西村源助	嶋津源藏	糸田貞七	岩坪五兵衛	濱口富三郎	井口新之助	濱口卯之助	中西虎之助	京都紡績株式會社	小林善助	太田權七	京都電氣鐵道株式會社	第四回內國勸業博覽會	京都市

燃 系	製 箔	織 物	電 氣 鐵 道	時 計 製 造	製 油	印 刷	織 物	製 瓦	製 油	製 漆	眞 鍍 延 板	撚 糸	製 綿	眞 鍍 製 造	精 米	電 燈	燃 系
												1,000	25,000	5,000	2,000	25,000	400
×	×	×	×	×		×	×	×				1,500	25,000	5,000	2,000	25,000	400
5,000	7,500	30,000	20,000	16,250	500	10,000	10,000	5,000	5,000	10,000		3,000	25,000	5,000	2,000	25,000	400
聚樂燃系合資會社	岩坪五兵衛	京都織物株式會社	京都電氣鐵道株式會社	京都時計製造會社	今西嘉兵衛	京都商報合資會社	京都織物合資會社	大佛製瓦所	西村仁兵衛	齋藤正太郎	東菊次郎	岩崎利八	京都製綿株式會社	岡田庄太郎	南條仁兵衛	京都市議事堂其他	聚樂燃系合資會社

計	火防用水	火防用水	綿糸紡績	精米	箔打、器械製造	組物精米	精米製粉	精米	線製造	精米、鍛冶、電	火防用水	精米製粉口	精米	精米、石粉製造	精米、石粉製造	精米	精米
二五、八〇																	
六四、二〇																	
一三、二〇																	
二〇、五〇												三、六〇	一五、六〇	三、四〇	二、八〇	一、五〇	一、一〇
二八、八〇							一七、〇〇	一、〇〇	九、四〇	三、五〇	三、六〇	一五、六〇	三、四〇	二、八〇	〇	二、〇〇	
四三、八〇				七、〇〇	二四、四〇	九、三〇	二四、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三、五〇	二、六〇	一五、六〇	二九、四〇	二、八〇	〇	〇	
四一、二〇			七、〇〇	二九、〇〇	九、三〇	二、九〇	二四、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三、五〇	二、六〇	一五、六〇	二九、四〇	二、八〇	〇	〇	
四四、七〇	二、六〇	〇、二〇	七、〇〇	二九、〇〇	九、三〇	三、九〇	二四、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	四、〇〇	二、六〇	二五、四〇	二九、四〇	二、八〇	〇	〇	
	奧島元次郎	帝國京都博物館	山縣有朋	伏見紡績株式會社	山上伊三郎	河本喜兵衛	小關伊三郎	長谷川熊次郎	澤邊伊之助	津田幸次郎	大谷派本願寺	飯田儀兵衛	佐々木卯三郎	岩佐新兵衛	梶原伊八	竹村喜八	松村重吉



第四號

創業以來三十一年三月迄各運河使用水力年別表

運河名	二十四年末	二十五年末	二十六年末	二十七年末	二十八年末	二十九年末	三十年末	三十一年末
本線	二五,八〇〇	五,六〇〇	二二,〇〇〇	三三,六〇〇	一七,二〇〇	一七,九〇〇	一八,〇〇〇	一八,〇七〇
分線	〇	七,六〇〇	一〇,二〇〇	一,一三〇	一〇,六〇〇	八,六〇〇	九,四〇〇	九,四〇〇
新運河	〇	〇	〇	七,六〇〇	一四,〇〇〇	二六,〇〇〇	三四,六〇〇	三四,六〇〇
計	二五,八〇〇	六,六〇〇	三二,二〇〇	三三,〇三〇	二八,八〇〇	四三,八〇〇	四四,二〇〇	四四,〇七〇

明治自廿四年水利事業費實收支調書
至三十年

收入之部

一金貳拾七萬參千百五拾四圓八錢四厘

實收額

支出之部

一金貳拾壹萬參千八百九拾五圓參拾五錢五厘

實支出額

收入內譯

收入目	年度別									
	廿四年度	廿五年度	廿六年度	廿七年度	廿八年度	廿九年度	三十年度	合計		
電力使用料	八〇,〇四一	二,四五六,三五三	八,七五二,四九九	七,八三一,九三三	五,二七四,八六五	二,〇六一,四四三	七,〇五五,〇三三	二五,五七七,九三七		
水力用料	三三四,八五三	一,一九九,一〇六	二,四八一,八四三	三,一五九,〇六四	五,四〇九,六三〇	八,五七三,七九	二,六七二,六九九	三三,八二〇,九九七		

論說及報告

支出目	年度別							合計
	廿四年度	廿五年度	廿六年度	廿七年度	廿八年度	廿九年度	三十年度	
遊船使用料	九五二,五〇〇	七〇〇,〇〇〇	一,一八五,〇〇〇	一,七二一,五〇〇	一,七七七,五〇〇	一,七七七,五〇〇	一,七五五,〇〇〇	九,九三〇,〇〇〇
閘門使用料	九二,一〇〇	四〇〇,〇〇〇	七三六,四〇〇	七四七,七〇〇	一,一六〇,〇〇〇	九九九,二七〇	九九五,四六〇	五,五八一,二八〇
インクライン	六,四〇〇	五〇,八〇〇	一四二,〇〇〇	一七,〇〇〇	七二,〇〇〇	三,六〇〇	三,九〇〇	一〇三,一〇〇
運輸船使用料	三五六,〇〇〇	一,六八九,〇〇〇	一,九六三,七五〇	二,六五九,八〇〇	三,二八七,一九〇	二,九九九,六四〇	三,九九六,六〇〇	一六,八六九,六三〇
地所貸付料			二五,二七三	九〇,一九五	八二,六五四	六七,二七三	八九〇,三三二	三,五〇一,二〇七
捕魚料		一六〇,八〇五	一七四,八三六	三,四九三,七七二	二,〇八五,〇三〇	七〇六,五三〇	二五五,七七八	六,八七六,六二六
雑収入					一五〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	九八〇,〇〇〇	一,六三〇,〇〇〇
寄付金	一,八〇二,四九四	六,六八九,二五四	一五,四八五,五五二	三〇,五七二,二八五	四〇,四四一,七〇〇	六九,六五九,五三一	九八,六五九,三六四	三三三,一五四,〇八四
合計	一,八〇二,四九四	六,六八九,二五四	一五,四八五,五五二	三〇,五七二,二八五	四〇,四四一,七〇〇	六九,六五九,五三一	九八,六五九,三六四	三三三,一五四,〇八四
水利事務所費	四〇六七,六五〇	五,八三一,三七七	六,二四九,一六六	九〇五,七三三	四,六四九,五五二	一九一八六,四九六	七五,八八五	八五,六一,四四二
疏水運河修繕費	八二,八七二	一,三三六,五五五	一,三六八,二六二	一,三三七,三九二	一,五四二,二八二	四,二四九,五六九	六,三三九,八六六	一六,七八五,六七
大津飲料水	二,六七三,〇三三	二,四三七,〇六六	三,三三九,八四五	二,八九一,四四三	二,八八五,七二四	五,三三九,八六五	二,三三四,三七七	二二,九三一,三三三
補給費	三二,一六五	二七五,五五五	二九九,六四六	九三〇〇	一四,三九〇			八八〇,四九六
量水観測費								
元資金利子				一〇,七八三,九八七	三〇,九四六,五三七	二八,九七二,八九九	四九,九二七	八八,五六,四五六

常 經 費

支出内譯

合	計	七、八四、四〇〇、九、九〇〇、一、八三二、一七三、六九四、〇七、九三、四〇、〇三八、三九八、五、〇五、六四、七六、三二五
收支差引	剩餘	四、三三、二八三、六、五、四、三、〇五、一〇、三、六、五、七、七三、三、四、六、六、三、八三、〇、四九
不足		六、〇七、七、七、七、六、三、一〇、一、九、九
		二、三、八、九、五、三、五、五、九、二、五、八、七、九

右收支調書中ニアル有益ハ條例ヲ定メル當時京都ニ於テ石炭ノ平均相場壹萬斤ニ付金貳拾三圓ナリシヲ尙之ヨリ二割ヲ減シ壹萬斤ニ付金拾八圓四拾錢ノ割合ヲ以テ電力ノ使用料ヲ定メ之ヲ基礎トシテ左ノ條例ヲ定メタルモノニシテ水利事務所ノ直接ニ得ル利益ノミ掲ケタルモノナリ若シ間接ノ利益ヲ論スレハ特リ京都市ノミナラス宇治、愛宕、葛野、紀伊ノ各郡ニ及ホシ其受ル所ノ利益實ニ莫大ニシテ一々枚舉ニ遑アラヌ固ヨリ直接利益ノ比ニアラサルナリ

(未完)

拔萃

○セントバーナードニ電氣鐵道布設ノ計畫

有名ナルアルプス山ノ徑路タルグレート

セント、バーナードニ電氣鐵道ヲ布設セントグレート、セント、バーナード鐵道會社英國ニ創立セラレ已ニ其計畫ヲ具シテ伊太利政府ノ准許ヲ乞ヘリ其山内線路ノ全長ハ四十三哩半ニシテ出願線路ハ伊太利ノ國境ヨリミレイス州ノマーチグニーマデノ間ナリ其設計ハ技師ジョン、ビー、フェル氏ヨリ伊太利並ニ瑞西ノ兩政府ニ回送シテ其觀覽ニ供シタリ山路ハ非常ニ峻險ナルヲ以テ第三軌條アプト式ヲ採用シ且冬期異常ノ降雪ニ遭遇スルガ故ニ運轉ノ安全ヲ保維スル爲相當ノ設備ヲナス積リナリ工費ハ十二万磅ノ豫算ニシテ政府ノ補助ヲ仰ガザル